

2026年新年のごあいさつ

認定NPO法人3keys（スリーキーズ）代表理事 森山 誉恵

新しい年を迎え、日頃より3keysの活動に温かいご支援をお寄せくださっているみなさまに、あらためて感謝申し上げます。

2024年、日本で生まれた子どもの数は、はじめて70万人を下回りました。子どもが少なくなったのだから、一人ひとりをより大切にできるはず——そう思いたいところですが、現実とはなっていません。虐待相談対応件数は過去最多を更新し、いじめの認知件数も高止まりしています。子どもを見守る社会そのものが弱くなっているのではないのでしょうか。

深刻なのは、子どもと向き合う大人たちの状況です。教員の精神疾患による休職者数は過去最高を記録しました。子どもたちに寄り添うはずの大人は増えるどころか疲弊しています。家庭や学校の外で子どもを支える立場にあるすべての大人たちは、教育現場がいったい何にそんなに追われているのか、立ち止まって考える必要があるのではないのでしょうか。

先日、ある子どもから匿名でこんな声が届きました。

「(学校の) ソーシャルワーカーに相談しても、見られていたのは私じゃなく、親のことと、どこにつなぐかという話ばかりだった」

「支援が入ればよくなると思われていた。でも、支援が入ったことで、家の中はもっとぐちゃぐちゃになった」

「家庭への介入や、解決策、評価より先に、『しんどかったね』『頑張ったね』と言ってほしかった」

この声が教えてくれるのは、一時的な介入や目の前の課題解決だけでは、子どもは守れないという現実です。子ども自身の思いが置き去りにされたままでは、支援はかえって孤独を深めてしまうこともあります。

小さい子どもたちは、今いる場所が安心できる環境なのかを常を感じながら、その安心をもとに成長していきます。思春期の子どもたちは、自立に向かう過程でさまざまな経験をし、失敗を重ねながら社会へ羽ばたく準備をしています。しかし、まだ子どもです。一人ですべて



を抱えることはできません。失敗しても、受け止め、支えてくれる人がいることが不可欠です。しかし現実には、家族の規模は小さくなり、地域のつながりは薄れ、学校現場も限界に近づいています。子どもを支えるはずの「網」は、社会のあちこちで破れています。

3keysは、この問題を自分たちだけで解決できるとは考えていません。私たちにできるのは、制度の枠では拾い切れない声に耳を傾け、時間をかけて関係性を築き、効率や即効性では測れない支援の在り方を実践することです。さらに、その実践を自分たちだけの取り組みとして終わらせるのではなく、国や行政、他団体と共有し、社会全体に広げるために働きかけていくことが重要だと考えています。

そのためには、より多くの大人が子どもの声を「知ろうとすること」が欠かせません。評価や解決を急ぐ前に、子どもの目線で一緒に考える大人が社会のあちこちに増え、子どもたちのペースや思いを待つ余裕を持ちながら、一緒に解決していくこと。それが、本当の意味で子どもたちを支える社会につながると、私は信じています。

2026年も、一人でも多くの大人たちが子どもたちの現状に向き合うこと、そのために自分たちができることを考え、子どもたちを支える社会を強固にしていくことを目指して、取り組んでまいります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



学習支援利用施設へのインタビュー

3keysでは団体設立当初より、児童養護施設などで暮らす子どもたちに学習支援をおこなっています。学習塾と提携したスモールステップ教材、独自に作成したオリジナル教材、伴走支援を組み合わせ、子ども一人ひとりに合わせた個別カリキュラムを届けています。オンラインの仕組みも徐々に整っており、2024年には遠方の施設にも支援をスタートさせました。今回はその一つである、山口県にある児童養護施設の職員の方にお話をうかがいました。



今回お話を聞かせていただいた児童養護施設の職員の方。以前は中学校の理科の先生だったそうです。

—導入前に感じていた課題について教えてください

本来は、職員が自分が担当している子どもの学力を把握して、それに見合った学習を進めていくことが重要ですが、まずは、その学力把握が難しかったです。

以前は、学校で実施された学力テストの結果などを手がかりに、インターネット上の無料プリントや100マス計算などを準備し、抜け漏れを補おうと試行錯誤していました。でも、生活支援など他の業務にも追われていましたし、一人ひとりの間違いの原因や、どこまで戻って学習すべきかといった判断をすることは非常に難しく、あまりうまくいっていませんでした。

—施設で暮らす子ども特有の学習ハンデはありますか？

学校に行けていなかった時期が長い子どもが多いのですが、授業を受けていないと、その間の知識を自分の力で取り戻すのは、ほぼ不可能です。職員の側も「この子は〇年生のときに学校に行けていないからこの学習を埋めよう」と考えて、見合った教材を用意するというのは非常に難しく、抜けたまま、基本がふらついているので、知識が積み上がらない状態になってしまいます。それと、一般家庭の子どもたちと比べて、発達や知的な面で課題を抱える子の割合も高いように感じています。

—3keysの学習支援を導入したきっかけと理由を教えてください

2025年3月にあった3keys主催の「学習応援セミナー」を受けたのがきっかけです。私は以前、中学校の理科の教員だったため、施設でも「学習係」を担当しているんです。そこで、別の学習係の職員も誘ってセミナーに参加したところ、これが本当に良くて。「絶対やろう！」と一気に話が進みました。



3keysの学習に取り組む子ども（取材先の施設とは異なります）

セミナーでは、3keysの方の話を聞きながら、息つく間もなくメモを取りました。特に良いと感じたのが、ICTに頼らず紙で進める学習スタイルと、学習習慣づくりを重視している点。そして、スモールステップどころか「ベビーステップ」といえるほど細かく分解された教材も素晴らしいと感じました。特に算数の教材は、ここまで細かく分解された市販教材はないと思います。教員時代に、これを知りたかったくらいです。

中学校では、理科でも計算力が求められます。小学校の四則計算が身につけていないと、中学校では理科も難しいんですね。小数点がたくさん出てくる計算も多いので、計算力は本当に大事です。3keysの独自教材は、学習の基礎となる四則計算を丁寧に積み上げられるのが良いです。また、読解力を育てるための「よみもの教材」が豊富に用意されている点も非常にありがたいです。

—導入後、子どもたちに変化はありましたか？

導入から数か月が経ち、土日も含めて、毎日のように3keysの教材に取り組むことができています。先日、3keysのスタッフの方から成果を褒められて、職員もものすごく喜んでいましたし、そのことを子ども本人に伝えたと、「ありがとうございます！」と嬉しそうでした。本当に1枚ずつなんですけど、着実に身につけている感覚があるし、そうやってフィードバックすることもできるし、毎日やるとこんなにも違うのかと実感しています。

その他の子どもたちも、平日は毎日やっていたり、週に3日は続けていたり、学習を「やるのが当たり前」と捉えられるようになってきています。

—職員の方たちの負担はどうでしょうか？

月1回のオンライン面談のたびに、3keysのスタッフの方から、いろいろとアドバイスをいただけるのも非常に助かっています。私は教員でしたが、例えばディスレクシア（識字障害）の子がどんな特徴があるかなど、よく分かっていませんでした。でも、3keysのスタッフの方は知識が豊富で、子どもの書いたものを見てもらって、特徴や特性を教えていただいたり、「分からなくても無理せず読ませるだけでいい」といった助言をいただけたりするので、職員の負担軽減や安心にもつながっていると感じています。

子どもたちの“声なき声”を、社会の真ん中へ届ける —— 支援の現場から行政のビジョンを変えていくために



東京都港区では、学識経験者やさまざまな分野の実践者とともに港区の将来像を描く「MINATOビジョン コ・デザイン会議」が開催されています。3keys代表の森山は「子ども・子育て分野」の専門家として委員に選出され、2025年を通じて本会議に参加してきました。

「MINATOビジョン コ・デザイン会議」のページ.....▶



なぜ、3keysがこの会議に参加するのか——。

それは、制度や施策を考える場に、3keysの支援の現場で見えている子どもたちの現実を届けるためです。

私たちが日々向き合っているのは、家庭や学校、地域で生きづらさを抱えながらも、意見募集などの場には参加できない子ども・若者たちです。一見、豊かに見える都市部であっても、悩みを抱え孤独に苦しむ子どもたちは、確実に存在します。中でも、虐待などの環境下にあり声が届きにくい子どもや、思春期以降になると支援の対象として捉えられないことも多く、制度のはざまに置き去りにされがちな若者たちは、その存在自体が社会から見えにくくなりがちです。森山は、そうした“声にならない声”を代弁する立場としてこの会議に参加してきました。

「声をあげられない」現実を前提にしたまちづくり

7月の第1回に続き、12月には第2回のシンポジウムが開催されました。森山は登壇し、「声をあげないのではなく、声をあげられる状況にない子どもたちがいる」ということを前提に、政策づくりやまちづくりを考える必要性を訴えました。

シンポジウムで感じた課題や気づきを、森山自身がnoteの記事につづっています。ぜひ合わせてお読みください。

「タウンミーティングに來られない子どもたちの声を代弁して」代表・森山のnote記事より.....▶



現場の声を、社会の仕組みへつなぐために

まちづくりや行政運営の議論は「声をあげられる人」の意見に偏りがちです。だからこそ3keysは、支援の現場で見えてきた課題や子どもたちの小さなSOSを、政策やビジョンづくりの場へ届ける役割を大切にしています。

今回の港区での発信を足掛かりに、私たちは「どんな地域にいても、子どもたちが取り残されない社会」を全国へ広げていきたいと考えています。みなさまからのご寄付は、目の前にいる子どもたちを支えるだけでなく、社会の構造そのものを変えていく「政策提言」への力にもなっています。ぜひ引き続き、私たちの挑戦を支えていただけますよう、よろしくお願いいたします。



第28回 Child Issue Seminar 開催のご案内

「つながりの過剰」と「ひとりの安心」 —— 若者が“つながりを選べる”社会を考える

【基調講演】筑波大学人文社会系 教授 土井 隆義 氏

- ・ 4000人の思春期世代アンケート調査結果報告
- ・ 3keys活動報告—非交流型居場所の5年間の実践報告
- ・ トークセッション—非交流型居場所とはなんだったのか



- 日 時：2026年3月2日（月） 14:00-17:30
- 会 場：日比谷図書文化館
日比谷コンベンションホール（大ホール）
- 参加費：会場参加 無料／アーカイブ配信1,000円

▲詳細・参加申込はこちら

■登壇者：

- ・ 筑波大学人文社会系 教授 土井 隆義 氏
- ・ 北海道大学大学院教育学研究院 准教授 加藤 弘道 氏
- ・ 早稲田大学 招聘研究員 白田 好彦 氏
- ・ こども家庭庁成育局成育環境課居場所づくり推進官 大山 宏 氏
- ・ 元港区子ども家庭支援センター 所長 保志 幸子 氏
- ・ 認定NPO法人3keys 代表理事 森山 誉恵



最近のメディア掲載

2025年
10月

雑誌『Forbes JAPAN』12月号

特別企画「NPO50 2025」にて、有識者からなるアドバイザーボードの推薦に基づき、3keysが社会課題解決に取り組むNPO50団体の一つとして選出、掲載されました。



2025年
10月

東京都Webサイト
「TOKYO YOUTH HEALTH CARE」

東京都が運営する10代向け健康・医療サイト「TOKYO YOUTH HEALTH CARE」に、3keys代表・森山が監修した記事が掲載されました。悩みを誰にも相談できないときの向き合い方について提案しています。

▼サイトはこちら

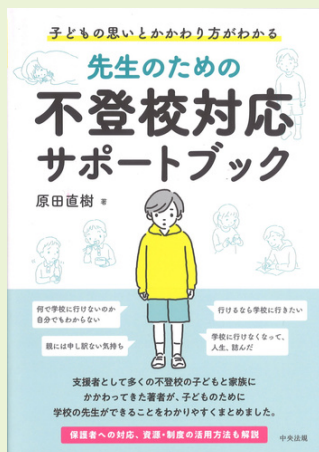


2025年
5月

書籍『先生のための不登校対応サポートブック』（中央法規出版/原田直樹 著）

3keysが運営する10代向けサイト「Mex（ミークス）」内の「気持ちをはきだす」という機能に関するコラムが3ページに渡って掲載されました。

▼本の詳細はこちら



2025年
8月

「悩める若者のための情報ハンドブック」（国立精神・神経医療研究センター作成）

10代から20代の子ども・若者世代に向けて作成されたハンドブックに、3keysが運営する10代向け支援サービス検索・相談サイト「Mex（ミークス）」が掲載されました。



ご寄付のお願い

3keysの活動はみなさまからのご寄付によって支えられています。今後とも応援をよろしくお願いいたします。

毎月（または毎年）決まった額をご支援いただく「継続寄付」、都度自由な額をご支援いただく「単発寄付」がごございます。

▼ご寄付のお申し込みはこちら



▼継続寄付の金額変更はこちら



■銀行

三菱UFJ銀行／大塚支店／普通 0081838／
名義：特定非営利活動法人3keys〈トクヒ〉スリーキーズ

■ゆうちょ

〇一九店／当座 00160-3-359322／
名義：特定非営利活動法人3keys〈トクヒ〉スリーキーズ

3keysへのご寄付は、寄付金控除（約4割還付）の対象です。

認定NPO法人3keysは、一般的なNPO法人と比べ「より公益性をもっている」と、所轄庁からお墨つきをもらっている「認定」NPO法人です。認定NPO法人に寄付をした場合、確定申告をすることで、寄付額の約40%が所得税より還付または減税されます。

※高額所得者や年間の寄付金額が大きい方は、【所得控除】が有利になる場合がありますが、多くの場合は【税額控除】を選択したほうが断然お得です。詳しくは、<https://3keys.jp/donation/deduction/>をご参照ください。「3keys 控除」でも検索できます。

◀・・・・・・例えば年間50,000円を支援・・・・・・▶

実費負担30,800円

約4割が還付

例）年間50,000円の寄付をした場合、19,200円が還付または減税されます。
(50,000円－2,000円)×40%＝19,200円